

《令和6年度長期宿泊体験活動における教師の働きかけについて》

これまでの議論をもとに、セカンドスクールにおける教師の働きかけについて検証を行った。なお以下の2点は、これまでの議論の主な意見をまとめたものである。

- 児童・生徒、指導員、保護者、現地の方等に区分してまとめる。
- 教師の働きかけにより変容した事例を収集し、具体的な取組、方法、テーマ設定等
を分析・検証する

教師の働きかけの分類

対象	内容及び変容	取組、方法など
児童 生徒	事前に、集団活動や、学校外の人との関わりについて指導したことで、学校に戻った後にも相手意識をもって生活する児童が増えた。	○具体的な事前指導
	事前学習で学習課題を立てさせたことにより、年間を通して取り組む意識をもった。学校に戻った後もプレセカンドスクールでの学びを意識して取り組んでいた。	○年間を見通した計画の設定
	めあて「例…協力、あいさつ、自然、思いやり」を示し、事前学習から意識させたことで、現地での言動、帰校後の言動にも変化が見られた。	○めあての設定・周知
	振り返りを行い成果と課題を掲示していたことで、課題意識をもって生活しようとしていた。	○視覚化
	探究学習では、課題を現地で見たり、聞いたりしたことで自然に関心をもつ児童・生徒が増えた。	○資源の活用
生活 指導 員	今年度の生活指導員は昨年度から経験している人がいた。また同じ学校のTAや教育実習生がいたのでコミュニケーションがとりやすかった。	○効果的な人材の確保
	情報を共有しやすいように、フォーマットの準備や、事前に連絡形態の構築を行ったので、全宿共通した指示や指導体制がとれることができた。	○情報共有方法の確立
	指導員の動きを一覧にしたものを事前に渡していたことで、当日の動きが明確化になった。	○効果的な準備

	<p>生活指導員と児童とのマッチングを計画的に行い、困ったことを適宜言うことができる環境を整えたことで、児童への言葉掛けが向上した。</p> <p>指導を必要とする指導員がいた。食堂内で児童が自由時間を過ごしている際に、指導員二人ともがその場を離れてしまう場面があった。どちらか一方は残り、目を離さぬよう指導した。</p>	○丁寧な実態把握による言葉掛け
保護者	<p>保護者会や帰校式などで、ねらいや内容、児童・生徒の様子について写真を用いて説明する時間を十分に確保した。保護者からは「こんな話を聞かせてくれた、友達が増えたようだ。」と報告を受けた。</p>	○継続的な取組の周知
	<p>帰校後、保護者がしおりを見て、児童の活動についてメッセージを書いた。児童の学びを保護者が確認できたことは意義深かった。</p>	○活動の共有及びフィードバック
現地	<p>ガイドと4月から打ち合わせを行い、事前に来校した際にはスライドや写真による活動の紹介があった。課題設定の時間として有効であった。</p>	○事前学習からの連携
	<p>実地踏査でねらいやプログラムを確認し、本番の初日と5日目にも打ち合わせを行った。事前学習の様子や学習課題等の情報を共有したため、学習課題からずれずに活動できた。</p>	○丁寧な連携
	<p>活動とセットで目的を伝え、その目的にそった内容を一緒に考えられたため、全員が同じ意識で進めることができた。</p>	○目的の共有